

月刊絵本「こどものとも」に見る父親像・母親像

Depiction of Fathers and Mothers in Monthly Picture Book “Kodomo no Tomo”

伊 藤 美 佳
ITOHI Mika

要旨

本研究は、月刊絵本「こどものとも」が創刊された1956年4月号から2005年3月号までの「こどものとも」588冊において、父親像・母親像がどのように捉えられてきたのかを、具体的に絵本の中身をみることで検討したものである。その結果、全体的にみて「男の子と母親」という親子関係で登場している作品が多くあること、父親像・母親像は、「男は仕事・女は家庭」といった固定的な性別役割分業観で描かれている作品が多いことが分かった。時代の流れで作品の傾向を見ていくと、1975年の国際婦人年以降、固定的な性別役割分業観に縛られない作品が少しずつ現れてきており、1994年総理府に「男女共同参画室及び男女平等審議会」が設置された前後からは、固定的な性別役割分業観に縛られない父親像・母親像が多く描かれるようになってきていることが分かる結果となった。

キーワード：父親像 母親像 こどものとも 性別役割分業観

1. はじめに

これまで、絵本の中に表れた性差について研究している論文、特に「月刊絵本」を検討資料としているものは少ない。そのうち、伊藤（1998, 2003, 2006, 2007）、武田（1999, 2000, 2001）は、どちらも、月刊絵本『こどものとも』を題材として、その中でどのように性別役割分業観が捉えられているかを検討している。

両名とも、「月刊絵本」を研究資料として取り上げる理由として、絵本は子ども達が繰り返し読む保育文化財であること、また、その中でも特に、月刊絵本は幼児教育と密接なかかわりがあり、子ども達の生活や、その意識に与える影響が大きいことを示唆している。

2. 研究の目的

1956年に幼稚園教育要領が施行されて以後、現在の幼稚園教育要領、保育所保育指針に至るまで、「絵本」は必ず、保育のねらいや内容の中に組み込まれてきている。そのため、絵本はメディアの中でも特に、保育の中で大きな位置を占めていると考えられる。

月刊絵本は現在、「こどものとも」のように書店で買えるものも存在するが、その販売方法は基本的に、創刊当初から、保育現場への直接販売方式、予約購入制という形をとっていた。このことから、月刊絵本の販売対象は、幼稚園・保育所に通う子ども達であることがわかる。

また、月刊絵本は、創刊当時から幼稚園教育課程、保育課程の影響を大きく受けて作られている。1926年に幼稚園令が施行されると、その保育項目の中に「観察」という項目が入り、その翌年の11月、観察絵本「キンダーブック」が創刊される。1956年に幼稚園教育要領が制定され、その中の保育の内容「言語」領域の中に望ましい経験として、絵本の意義が示されると、その年の4月、本論文で取り上げる月刊絵本「こどものとも」が創刊された。続いて1965年に保育所保育指針策定、その中で、子どもの発達を年齢別に捉えるということがなされる。それに合わせるように、月刊絵本も年齢別に捉えて示されるようになった。保育所保育指針策定の前年に、「チャイルドブックゴールド」が年長児向けとして出版、今までの「チャイルドブック」は、年中児向けとして出版されるようになる。その後、1980年代に入ると、「こどものとも」や「ひかりのくに」「キンダーブック」といった月刊絵本も、年齢別絵本を出版するようになっていく。

これまで述べてきた通り、月刊絵本と保育とのかかわりは大変深い。そのため、月刊絵本の中でどのように父親像・母親像があらわされてきたのか、ということを見ることは、保育においてどのようにその姿や役割を捉えてきたのか、ということを考える一つの要素になるとも考えられる。

本研究では、月刊絵本のなかでも「こどものとも」を取り上げ、そこに登場する父親像・母親像に注目して、どのようにその姿、役割が捉えられてきたのかを検討することを研究目的とする。

3. 研究方法

1956年の「こどものとも」創刊号から2005年3月号までの「こどものとも」588冊において、父親像・

母親像がどのように捉えられてきたのかを、具体的に絵本の文章と絵を見ることで検討し、父親または母親が作品の中に登場した179作品に関して、「A父親の姿なし/母親のみ登場」「B母親の姿なし/父親のみ登場」「C父親＝仕事・ネクタイ・背広・外/母親＝家事・子育て・エプロン・割烹着・内」「D母親は家事も仕事も」「E父親も家事・子育て」「F 仕事をする母親」「G 父親・母親共に協力して仕事・子育て」「H エプロンを付けない母親」の8項目に分類し、創刊当時から2005年にかけて、父親像・母親像に変化が見られたかを検討した。また、主人公の性別と親との関係についても検討をした。

4. 結果と考察

(1) 父親・母親が登場した年代別作品数

父親・母親が登場した179作品が全作品数の中でどの程度の数で占めているのかを、創刊時から2005年まで時代ごとに10年一区切りで見たものが表1である。どの時代においても、約3割の割合で父親・母親が登場する作品があることが分かる。

表1 年代別に見た父親・母親が登場した作品数

年代	父親・母親が登場した作品	その他	合 計
1956年4月-1966年3月	30	90	120
1966年4月-1976年3月	38	82	120
1976年4月-1986年3月	40	80	120
1986年4月-1996年3月	33	87	120
1996年4月-2005年3月	34	74	108
合 計	175	413	588

(2) 父親像・母親像の分類と分類項目別作品数

次に、3. 研究方法で示した方法で分類し、それらを表にしたものが、表2の絵本分類表である。それらを絵本の描かれ方の分岐点となったと思われる時代（1975年国際婦人年、1985年男女雇用機会均等法施行、1994年男女共同参画室及び男女平等審議会設置、1999年男女共同参画基本法施行）毎に区切って、項目別に作品の数で見たものが表3になる。

表2 絵本分類表

発行年月	号	タイトル	主役の性別	分 類
1956.11	8	がらんぼーごろんぼーげろんぼ	男	A
1957. 2	11	ねずみのおいしゃさま	男	AC
1957. 3	12	ひとりのできるよ	男	AC
1957. 7	16	みんなで しょうよ	男	B
1957. 8	17	もりの むしたち	男	B
1957.10	19	きしゃはずんずん やってくる	男	A
1958. 4	25	はなと あそんできた ふみこちゃん	女	A
1958. 5	26	くまさんに きいてごらん	男	AC

1958. 7	28	でてきて おひさま	男女	A
1958.10	31	しらさぎのくる むら	男	A
1959. 3	36	とんだよ ひこうき	女	AC
1959. 9	42	やまなしもぎ	男	A
1959.11	44	かいたくちのみゆきちゃん	女	CD
1960. 1	46	あなぐまのはな	男	B
1960. 3	48	あたらしい うち	女	C
1960. 5	50	三びきの こぶた	男	A
1960. 6	51	たろうのばけつ	男	AC
1961. 2	59	みゆきちゃんまちへいく	女	E
1961. 3	60	さんびきのライオンのこ	男女	A
1961. 4	61	いちごつみ	女	AC
1961. 5	62	七ひきのこやぎ	男	A
1961. 6	63	オンロックがやってくる	男	A
1961.10	67	スーホーのしろいうま	男	A
1962. 2	71	みつこちゃんのむら	女	D
1962.11	80	あかずきん	女	C
1963. 4	85	たろうのおでかけ	男	AC
1964.12	105	クリスマスのほし	男	C
1965. 5	110	ぐるんぱのようちえん	男	C
1965. 6	111	ぼくは だれでしょう	男	A
1966. 2	119	ゆきのひ	女	C
1966.11	128	てまりのうた	女	AC
1967. 2	131	だるまちゃんとてんぐちゃん	男	C
1967. 5	134	あかちゃんのはなし	男	CE
1967. 6	135	びびとみみ	男女	A
1968. 2	143	プンク マインチャ	女	A
1968. 5	146	こちどりのおやこ	男女	G
1968. 8	149	だるまちゃんとかみなりちゃん	男	C
1968.10	151	いねになったてんによ	女	B
1969. 3	156	はるかぜとふう	男	C
1969. 6	159	こぶたのマーチ	男	B
1969. 7	160	みんなおいで	女	AC
1969.10	163	かさもっておむかえ	女	BC
1970. 3	168	たらばがにのはる	男女	G
1970. 4	169	とこちゃんはどこ	男	C
1970. 5	170	だぶだぶ	男	A
1970. 9	174	おおきなおみやげ	男	C
1970.10	175	ぶたぶたくんのおかいもの	男	A
1970.12	177	クリスマスがせめてくる	男	A
1971. 9	186	イカロスのぼうけん	男	B
1971.10	187	ゆうこのあさごはん	女	AC
1971.12	189	12のつきのものがたり	女	A
1972. 7	196	のんびりおじいさんとねこ	男	C
1972.10	199	かぜのおまつり	女	AF
1972.12	201	だるまちゃんとうさぎちゃん	男	AC

1973. 7	208	かずくんのきいろいながぐつ	男	BC
1973. 9	210	とうだいのひまわり	女	C
1974. 2	215	うおがしのあさ	男	BC
1974. 3	216	よわむしなじてんしゃ	女	C
1974. 4	217	あらいぐまとねずみたち	男女	G
1974. 7	220	しちめんちょうおばさんのこどもたち	女	AC
1974.11	224	しごとをとりかえたおやじさん	男	D
1975. 1	226	つつみがみつつ	男女	C
1975. 2	227	おおきなひばのき	男	C
1975. 4	229	ねこのごんごん	男	C
1975. 6	231	ぼくがとぶ	男	C
1975.10	235	くいしんぼうのあおむしくん	男	C
1975.12	237	つきよのばんのさよなら	男	BC
1976. 1	240	はじめてのおつかい	女	AC
1976. 4	241	こすずめのほうけん	男	A
1976.11	248	あな	男	C
1978. 8	269	せんたくかあちゃん	女	AC
1978. 9	270	とぶ	男	A
1978.10	271	はじめてのおきやくさん	男	C
1978.12	273	かじやとようせい	男	B
1979. 2	275	おはようミケット	女	E
1979. 5	278	あさえとちいさいいもうと	女	A
1979. 6	279	クレヨンサーカスがやってきた	男	A
1979. 7	280	ぼくのさんりんしゃ	男	A
1979. 9	282	よるのびょういん	男	C
1980. 2	287	ぼとんぼとんはなんのおと	男女	A
1980. 7	292	くらやみえんのたんけん	男	AC
1980.12	297	てっちゃんけんちゃんとゆきだるま	男	C
1981. 2	299	マフィンおばさんのパンや	男	C
1981. 4	301	ねことらくん	男	AC
1981. 5	302	サラダでげんき	女	AG
1981. 8	305	じてんしゃにのって	男	B
1981.12	309	ゆうちゃんとめんどくさいさい	男	AC
1982. 2	311	ひともいぬもそらをとんだ	男	C
1982. 4	313	なににのっていこうかな	男	AC
1982. 5	314	ちょっとおこっちゃったなおこちゃんのおうち	不明	C
1982.12	321	りすのクラッカー	男	A
1983. 2	323	いもうとのにゅういん	女	E
1983. 4	325	たろうのひっこし	男	AC
1983. 5	326	けいこちゃん	女	AC
1983. 7	328	いってらっしゃーい いってきまーす	女	G
1983. 9	330	ほくだあれ	男	A
1983.11	332	まいごになったなおこ	女	C
1984. 2	335	だるまちゃんととらのこちゃん	男	CD
1984. 6	339	おとうさん	男	C
1984. 8	341	石のししのものがたり	男	A

1984.12	345	あやちゃんのうまれたひ	女	C
1985. 2	347	こぐまのむっく	男	A
1985. 3	348	ハハハのがくたい	男	C
1985. 6	351	おかえし	女	AC
1985. 8	353	めっきらもっきら どおん どん	男	AC
1985.11	356	てんのくぎをうちにいったはりっこ	男	C
1985.12	357	ごんべえのぼうけん	男	A
1986. 1	358	きつねのよめとり	女	A
1986. 4	361	とん ことり	女	C
1986. 9	366	ドアをあけて	男	AC
1987. 2	371	ぼく しごとにくんだ	男	AC
1987. 4	373	ぐりとぐらとくるりくら	男	AC
1987. 5	374	たつくんのおみせばん	男	AC
1987. 7	376	おいしいものつくろう	男女	C
1987.11	380	おとうさんといっしょに	男	BCF
1988. 3	384	天のかみさま金んつなください	男	A
1988. 7	388	かみのけちょっくん	女	C
1988. 9	390	ひとりですばんでできるかな	女	C
1988.11	392	みほといのはなぼうず	女	C
1989. 1	394	ゆきあそび	男	AC
1989. 2	395	ぼく びょうきじゃないよ	男	AC
1989. 5	398	たつくんとかめ	男	AC
1989. 8	401	おっとせいおんど	なし	A
1989. 9	402	のえんどうと100にんのこどもたち	女	A
1989.12	405	もうすぐおしょうがつ	男女	C
1990. 4	409	ちいさいときはなんだった?	女	AC
1990. 5	410	ぼくのふね	男	G
1990. 6	411	たけし	男	AC
1991. 1	418	ロボットのくにSOS	男	B
1991. 5	422	たあんき ぽおんき たんころりん	なし	A
1991. 7	424	いすうまくん	男	BC
1991.10	427	やまのてっぺん そらのまんなか	男	B
1991.12	429	おとうさんをまて	男	BC
1992. 5	434	かなとおばあちゃん	女	BE
1992.10	439	けんけん	男	C
1992.11	440	あしたてんきになあれ	女	AC
1993. 5	446	ふくのゆのけいちゃん	女	CD
1993. 6	447	どてのしたてやさん	男女	C
1993.11	452	かやねずみのちゅるり	女	C
1994. 4	457	おやすみ なおちゃん	女	G
1995.11	476	ベレのはなび	男	BC
1996. 4	481	けんかおに	男	BC
1996. 5	482	あかいけいと	女	A
1996. 6	483	ひめねずみのみーま	女	A
1997. 4	493	ゆうこのきゃべつぼうし	女	C
1997. 7	496	そでふりむすめ	女	C

1997. 8	497	ともこのかいすいよく	女	BE
1997.10	499	まほうねずみのシュッポ	男	C
1997.12	501	ねぼすけスーザのセーター	女	AC
1998.10	511	あかちゃんがやってきた	男	H
1998.12	513	ふわふわふとん	男女	G
1999. 1	514	おおぐいひょうたん	女	F
1999. 2	515	のはらのいえ	不明	H
1999. 4	517	まゆとおに	女	AH
1999. 7	520	ごろびかどーん	男女	GH
1999.10	523	かぜのかみとこども	男女	G
1999.12	525	クリスマスのちいさなほし	男女	GH
2000. 5	530	しげみむら おいしいむら	男女	G
2000.12	537	きょうりゅうがすわっていた	男	H
2001. 4	541	トラのナガシッポ	男	B
2001. 7	544	さかなつり	男	C
2001.12	549	まゆとブカブカブー	女	AH
2002. 2	551	ねぼすけスーザのオリーブつみ	女	ACF
2002. 3	552	ねこのミロ	男	AC
2002. 4	553	くもりのちはれせんたくかあちゃん	女	AC
2002. 7	556	しのだけむらのやぶがっこう	男女	G
2002.10	559	はがぬけたよ	男	B
2003. 3	564	だるまちゃんとてんじんちゃん	男	CGH
2003. 6	567	ばらのことり	女	BE
2004. 3	576	まゆとりゅう	女	AH
2004. 5	578	くさはらのはら しぶゆきさんよん	女	C
2004. 9	582	わたしは せい か・ガブリエラ	女	G
2004.12	585	ほかほかパン	女	AC
2005. 1	586	たんじょうびのまえのひに	女	C
2005. 3	588	いのなかのかわずたいかいをしらず	男女	CG

A 父親の姿なし/母親のみ登場 B 母親の姿なし/父親のみ登場 C 母親=家事・子育て・エプロン・割烹着・内/父親=仕事・ネクタイ・背広・外 D=母親は家事も仕事も E=父親も家事・子育て F=仕事をする母親 G=父親・母親共に協力して仕事・子育て H=エプロンをつけない母親

表3 分岐点となる年代別に見た項目別作品数

	1956年4月～ 1974年12月	1975年1月～ 1984年12月	1985年1月～ 1993年12月	1994年1月～ 1998年12月	1999年1月～ 2005年3月
A	31	18	19	3	7
B	9	3	6	3	3
C	30	25	27	6	9
D	1	2	1	2	1
E	2	2	1	1	1
F	1	0	1	0	2
G	3	2	1	2	8
H	0	0	0	1	8

A 父親の姿なし/母親のみ登場 B 母親の姿なし/父親のみ登場 C 母親=家事・子育て・エプロン・割烹着・内/父親=仕事・ネクタイ・背広・外 D=母親は家事も仕事も E=父親も家事・子育て F=仕事をする母親 G=父親・母親共に協力して仕事・子育て H=エプロンをつけない母親

(3)「こどものとも」に見る父親像、母親像

月刊絵本「こどものとも」に登場する母親の多くが、表2、表3で示したように、図1～図2のような形で、エプロン、割烹着（分類項目C）を着て登場する。図3は、同じ福音館から出されている月刊絵本「かがくのとも」から1976年10月号として出版された、谷川俊太郎が文章を書き、長新太が絵を描いた『わたし』¹⁾という絵本である。ここであらわされている父親像・母親像は、男は仕事・女は家庭、という意識を覆して描かれている。この作品以前（1976年10月以前）に出版された「こどものとも」の作品には、表2、表3で示した通り、母親はよく登場するのに父親はあまり登場しない。絵本『わたし』が出版された1976年は、1975年の国際婦人年＝国連が女性の地位向上の為に定めた国際年の翌年にあたり、こうした社会状況も絵本に反映しているのかもしれない。『わたし』が出版された同じ年の12月には、料理をするのが大好きな父親像を描いた『おりょうりとうさん』²⁾が、フレーベル館から出されている。



図1 はじめてのおつかい（1976）より



図2 たろうのひっこし（1983）より

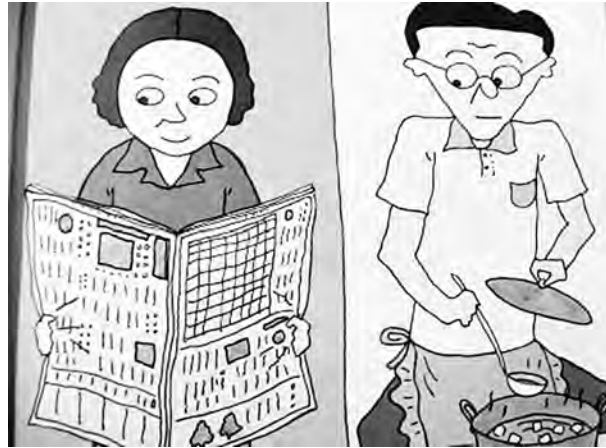


図3 わたし（1976）より

1) 「こどものとも」の作品全体における父親像、母親像の変遷

表2、表3で示した通り、全体的に年代を問わず、母親のみ登場する作品（分類A）、母親は家事・子育て・エプロン・割烹着姿、父親は仕事・ネクタイ・背広姿で描かれる作品が多いことが分かるが、一つの特徴として、1996年以降の作品に、父親・母親共に協力して仕事・子育て（分類G）、エプロンを付けない母親（分類H）の作品が増えていることが分かる。また、1986年以降の作品では、女の子が主役で子どもと関わる親が父親のみ（分類B）という作品が増えてきていることも分かる。

「こどものとも」において分類G、分類Hの作品がいつごろから出てきたのかに着目して、ここではまず検討していく。

Gに分類された作品は、1983年7月号の『いってらっしゃーい、いってきまーす』まで、表2に示した絵本のタイトルだけでも分かるように、1968年5月号の『こちどりの親子』、1970年3月号『たらばがにのはる』、1974年4月号『あらいぐまとねずみたち』と、動物の子育てを描いたものが中心だった。

『いってらっしゃーい、いってきまーす』³⁾は、朝、保育園へ父親と一緒に出かけから、母親と家に戻ってくるまでの主人公なっちゃんの日を描いたものだが、従来の、父親は仕事、母親は家庭という性別役割分業観をまさしく、覆したものである。ここに描かれる両親は、父親が絵描き、母親が会社員という設定で、一番最初に家を出るのは母親であり、それを見送るのは父親と娘（図4）という形になっている。また、父親は妻が出かけた後、娘を保育園まで自転車で送っていくが、主人公の父親以外にも父親の姿が見られ（図5）、決して育児が母親だけの役割ではない事が示される。保育園へのお迎えには、仕事を先に終えた母親が行っている。

この作品に描かれる家族像は、男だから女だからという制約に縛られず、男女お互いが自分らしく生活する様子を描いており、今までの「こどものとも」にはみられなかった作品となっている。

この作品は、国際婦人年が制定されてから8年、1985年に男女雇用機会均等法が施行される2年前のもの、といった事からも、時代が大きく反映されている事が伺える。

男女雇用機会均等法が公布された後は、従来の男は仕事、女は家庭といった作品や、母親はエプロンというイメージの作品がみられる一方で、1986年3月までの作品には全くみられなかった「母親抜き父親と娘」の関係を描いた作品が出てきている。



図4 いってらっしゃーい、いってきまーす (1983) より (1)



図5 いってらっしゃーい、いってきまーす (1983) より (2)

1994年4月号「おやすみ なおちゃん」⁴⁾では、家事・育児をする父親の姿が描かれる。この作品の付録である「絵本の楽しみ」に、作者である安江リエが「家事や育児は固定観念に捉われず、必要に応じて分担していただけたらいいと考える為、敢えて作品の中に家事・育児を分担する父親を描いた」という主旨の事を書いている。

1997年8月号「ともこのかいすいよく」⁵⁾では、表紙扉部分に、父親がおにぎりを自ら握ってお弁当を作る場面が描かれる(図6)。今までの「こどものとも」の中ならば母親の役割と考えられていた「お弁当作り」を、父親がするのである。また、文章の書き出しは「あさから あついにちょうびです。おかあさんはおでかけ。『きょうは、おにぎりをもって かいすいよくにいこう』と、おとうさんがいいました。」となっており、父子家庭ではない事が示されている。この作品は「料理・子育て」といったものが、決して母親だけに限って託された役割ではない事を示していると言えるだろう。



図6 ともこのかいすいよく (1997) より

この2作品は、丁度時期的に1994年総理府に「男女共同参画室及び男女平等審議会」が設置された時期と重なっている。また、1999年6月に施行された「男女共同参画社会基本法」前後の作品には、分類H（エプロンをつけない母親）の作品が増えてきており、創刊時から「こどものとも」の作品に描かれる父親像・母親像は、世相が少なからず反映して、その姿が変化をしてきていることが伺える。次に、加古里子が手掛けた「だるまちゃん」シリーズを中心に、父親像・母親像の変遷をたどってみる。絵本の分類項目に関しては、先に示したアルファベット記号のみでカッコ内に示す。

2) ①1960年代、1970年代のだるまちゃんの父親像・母親像（分類C）

図7は、1967年2月号『だるまちゃんとてんぐちゃん』⁶⁾の一場面である。



図7 だるまちゃんとてんぐちゃん（1967）より

この場面の文章は、次のように描かれる。

だるまちゃんは また うちへ かえって「てんぐちゃんのようなぼうしがほしいよう」といいました。
おおきな だるまどんは たくさん ぼうしを だしてくれました。
こんな ぼうしじゃ ないんだけどな
そのうち だるまちゃんは いいことを おもいつきました

ここで父親であるおおきなだるまどんは、息子のだるまちゃんと一緒に工夫して、だるまちゃんの欲しいものを作る息子と一緒に遊ぶ父親であるのに対し、母親は夫と息子が遊んでいる横で食事の支度をする姿が描かれる。また、だるまちゃんの妹は、お人形をおぶった姿で登場している。

次に、1968年8月号『だるまちゃんとかみなりちゃん』⁷⁾の中で、かみなりちゃんのお家でだるまちゃんをご馳走になる場面が図8である。



図8 だるまちゃんとかみなりちゃん（1968）より

この場面で、かみなりちゃんの母親は、夫、姑、子ども達4人、だるまちゃんがテレビを見ながらご馳走を食べる中、エプロンを身に付け、家族の中で1人立った状態で料理を出す。

1960年代に出されただるまちゃんシリーズの2作品はどちらも、父親が子どもと遊んだり一緒に食事をしたりする姿で描かれるのに対し、母親はエプロン、割烹着姿で、家で家事・子育てをする役割として描かれている。それは、1972年12月号の『だるまちゃんとうさぎちゃん』⁸⁾(図9)においても同様に、母親はエプロンをつけ、子育てをし、家事をする人として描かれる。



図9 だるまちゃんとうさぎちゃん (1972) より

②男女雇用機会均等法 (1985年) を区切りに変化するだるまちゃんの父親像、母親像 (分類D、F、H)

1960年代、1970年代に出版された作品とは異なる母親の姿がだるまちゃんシリーズで描かれるのが、男女雇用機会均等法が1985年に施行される1年前の1984年2月に出された『だるまちゃんをとらのこちゃん』⁹⁾である。

図10、図11は、だるまちゃんをとらのこちゃんがペンキ遊びをしている姿を見て、ペンキ塗りの注文が殺到し、家族皆でペンキ塗りの仕事をしている場面である。母親は、背中に子どもを背負いながらも、一緒にペンキ塗りの仕事をしている。

けれども、仕事が終わって、皆で身体をきれいにしてお茶とおやつを食べている場面 (図12) では、母親だけが座らず、椅子さえもなく、一人子どもを背負って皆にお茶を出す姿が描かれる。

これは、父親は仕事・母親は仕事も家事も子育てもという意識が出ていると言えるのではないだろうか。



図10 だるまちゃんをとらのこちゃん (1984) より (1)

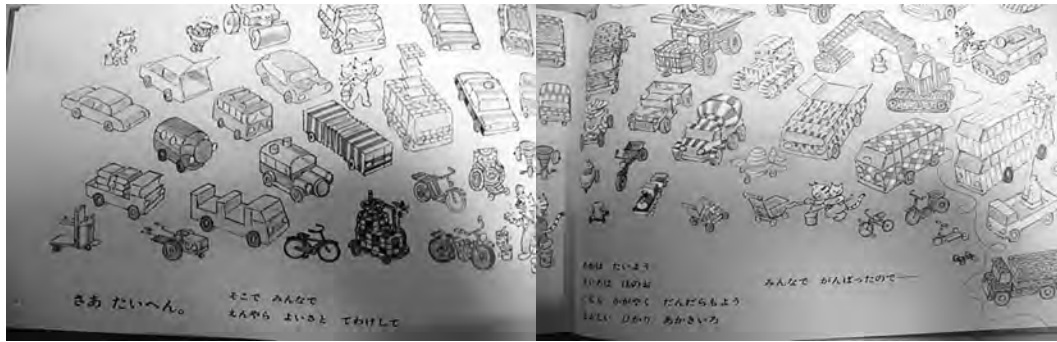


図11 だるまちゃんのとらのこちゃん (1984) より (2)

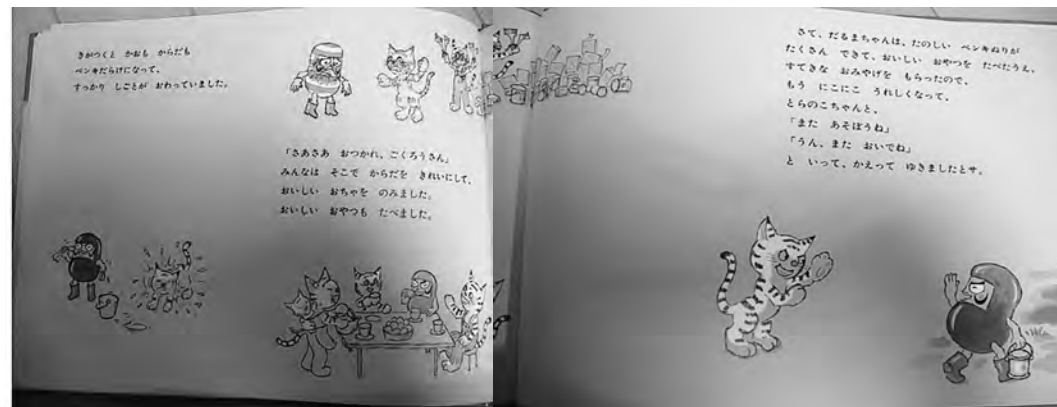


図12 だるまちゃんのとらのこちゃん (1984) より (3)

2003年3月に出された『だるまちゃん と てんじんちゃん』¹⁰⁾には、今までどおり、家事・子育てをする姿のだるまちゃんの母親とともに別の形の母親の姿が登場している。

釣りに出かけただるまちゃんは、てんじんちゃん達と知り合いになる。釣りで困っている所を助けてもらっただるまちゃんにてんじんちゃん達は、今度は家を片付け、ごはんをたいておにぎりを作り、畑仕事をしている父親、母親の所へおにぎりを持っていく手伝いをしてくれ、と頼む。

そして、今までのだるまちゃんシリーズでは見られなかった、皆と一緒に座ってエプロンをつけずに、息子達が作ってくれたおむすびを美味しそうに頂く母親の姿が描かれる(図13)。

この作品には、家事・子育てをするだるまちゃんの母親とともに、今までの「だるまちゃん」シリーズには描かれなかった、家事をせず、エプロンをつけず、畑仕事の後皆と座って男の子が作ったおにぎりを食べる母親が描かれるのである。



図13 だるまちゃん と てんじんちゃん (2003) より

加古里子一人の作品である「だるまちゃん」シリーズの中にも、「こどものとも」全体の父親像・母親像同様に、時代と共に父親役割・母親役割が世相に反映されてか、少しずつ変化をしていることが分かる。

5. 保育所保育指針・幼稚園教育要領からの検討

1996年8月20日付の日経新聞夕刊¹¹⁾に、「幼児教育テレビや絵本 脱ジェンダーの波」という記事が掲載された。そこには、幼児向けのテレビ番組、保育絵本に、「強い女の子像」や「料理をする男の子」が登場するようになったこと、月刊絵本の編集者も、性差を意識しない絵本作りを心掛けていることが紹介されていた。

その2年後の1998年に幼稚園教育要領が改訂、1999年には保育所保育指針が改定されている。その改定時、保育所保育指針には下記の文章が新しく加わった。

子どもの性差や個人差にも留意しつつ、性別による固定的な役割分業意識を植え付けることの内容に配慮すること。

(1999年改定保育所保育指針 第1章総則1 保育の原理 (2) 保育の方法 キ)

幼稚園教育要領には、性別役割分業観という言葉こそ出ていないものの、「幼児一人一人の特性に応じた保育」の大切さや「他人を尊重する気持ちを持って行動できるよう」教師が導くことの大切さが説かれており、この部分で上記保育所保育指針の内容と重なると考えられる。

これは、1999年6月の「男女共同参画基本法」以降、家事・子育てをする父親像、エプロンを付けない母親像が増えてきている時代と重なっており、創刊当時同様、その内容に関して、時代背景が幼児教育課程、保育課程の改定に大きく関わり、その影響が月刊絵本にも表れていることが分かる結果となっている。

6. まとめと今後の課題

「こどものとも」には、「男の子と母親」という親子関係で登場している作品が多くあること、父親像・母親像は、「母親＝家事・子育て・エプロン」「父親＝仕事・ネクタイ・背広・子どもと外で遊ぶ人」という固定的な性別役割分業観で描かれている作品が多いことが分かった。

時代の流れで作品の傾向を見ていくと、1975年の国際婦人年以降、固定的な性別役割分業観に縛られない作品が、少しずつであるが現れてきており、1994年総理府に「男女共同参画室及び男女平等審議会」が設置された前後からは、固定的な性別役割分業観に縛られない父親像・母親像が多く描かれるようになってきていることが理解できた。1999年6月の「男女共同参画基本法」以降の作品には、エプロンをつけない母親や、家事・子育てをする父親が描かれる傾向が増えてきていることが見られ、少なからず絵本の世界においても世相が反映していることが伺える結果となった。同様に、保育所保育指針、幼稚園教育要領のなかにもその流れは見られ、保育を実践する際、その部分に配慮しながら

保育を行うこと、子ども達に対して、さまざまな家族形態に触れられるような絵本を提供していくことの大切さが伺われる結果となった。

今後の課題としては、約10年前までの2005年3月までの作品までしか検討ができなかったため、2005年4月以降の作品の内容についても今後検討をしていくこと、また、絵本の内容を辿るのみで、作者がどのような意図を持ってそれぞれの父親像・母親像を描いたのか、出版社の意図が作品に働いて表現された父親像・母親像もあるのか、という部分までは検討できていないため、次の論文ではそこまで検討していくことが今後の課題である。

引用文献一覧

- ¹⁾ 谷川俊太郎作・長新太絵（1976）『わたし』 福音館書店
- ²⁾ さとうわきこ作・絵（1976）『おりょうりとうさん』 フレーベル館
- ³⁾ 神沢利子作・林明子絵（1983）『いってらっしゃーい、いってきまーす』 福音館書店
- ⁴⁾ 安江リエ作・垂石真子絵（1994）『おやすみ なおちゃん』 福音館書店
- ⁵⁾ 荒川薫作・織茂恭子絵（1997）『ともこのかいすいよく』 福音館書店
- ⁶⁾ 加古里子作・絵（1967）『だるまちゃんとてんぐちゃん』 福音館書店
- ⁷⁾ 加古里子作・絵（1968）『だるまちゃんとかみなりちゃん』 福音館書店
- ⁸⁾ 加古里子作・絵（1972）『だるまちゃんとうさぎちゃん』 福音館書店
- ⁹⁾ 加古里子作・絵（1984）『だるまちゃんとのらのこちゃん』 福音館書店
- ¹⁰⁾ 加古里子作・絵（2003）『だるまちゃんとてんじんちゃん』 福音館書店
- ¹¹⁾ 日本経済新聞（1996）『幼児教育テレビや絵本 脱ジェンダーの波』 日本経済新聞

参考文献一覧

- 藤枝滯子（1983）「絵本にみる女の子像・男の子像」、武田京子編『主婦は作られる』、汐文社 pp.148-174
- 伊藤美佳（1998）『幼児教育の中のジェンダー ―月刊絵本『こどものとも』からの一考察―』平成9年度聖和大学大学院修士論文
- 伊藤美佳（2003）「月刊絵本「こどものとも」にみる性別役割分業観―1956年4月号～1962年3月号（1）―」、『聖和大学論集―教育学系―』、第31号A2003、pp.187-201
- 伊藤美佳（2006）「月刊絵本「こどものとも」にみる性別役割分業観―父親像・母親像に注目して―」、『日本保育学会発表論文集』、第59回大会、pp.510-511
- 伊藤美佳（2007）「月刊絵本「こどものとも」にみる性別役割分業観―女性（女の子）主役の作品に注目して―」、『日本保育学会発表論文集』、第60回大会、pp.890-891
- 三宅興子編著（1997）『日本における子ども絵本成立史―『こどものとも』のはたした役割―』 ミネルヴァ書房
- 百々佑利子（1981）『児童文学の中の母親』 くもん図書
- 武田京子（1999）「『こどものとも』に表れた性差」、『岩手大学教育学部附属教育実践研究指導センター研究紀要』、第9号
- 武田京子（2000）「『こどものとも』に表れた性差2―性別役割意識と労働観―」、『岩手大学教育学部附属教育実践研究指導センター研究紀要』、第10号
- 武田京子（2001）「『こどものとも』に表れた性差3―きょうだい関係―」、『岩手大学教育学部附属教育実践研究指導センター研究紀要』、第11号
- 鳥越信（1995）『児童文学の大人たち』 文溪堂

幼稚園令 (1926)

幼稚園教育要領

保育所保育指針

Depiction of Fathers and Mothers in Monthly Picture Book “Kodomo no Tomo”

Mika Itoh

Abstract

This research takes a look at 588 publications of the monthly picture book “Kodomo no Tomo,” published between its first issue of April 1956 and the issue of March 2005. Each picture book was analyzed to determine how father and mother figures have been depicted over time. Looking at the picture books overall, the results show that there have been many books describing the parent-child relationship between boys and their mothers, as well as many works portraying a division of labor between mothers and fathers based on fixed gender roles, with men going to work and women staying at home. Looking at the changes in trends in picture books through time, since the International Women’s Year, in 1975, there has been a gradual increase in the number of picture books that are not tied to a specific division of labor based on fixed gender roles. The results of the research show that since around the time that the Gender Equality Office and the Gender Equality Council were established in the Prime Minister’s Office in 1994, picture books have depicted more and more mother and father figures that do not conform to this division of labor based on fixed gender roles.

Keywords: Depiction of Fathers and Mothers, Kodomo no Tomo, gender role